



題字：書道家 平田 洋香

### 第 43 号

発行日：令和4年10月18日  
 発行：一中地区市民委員会  
 編集：文化広報部会  
 事務局：一中地区公民館内  
 TEL：029-821-0104  
 世帯数：10,127戸  
 人口：20,193人  
 (令和4年9月現在)

## いごも の 広場

### 夏休みの思い出

中央二丁目  
 土小二年 根本 健琉

今年の夏休みは、初めてづくしでした。新型コロナウイルスがはやっていたので、去年とおとしは出かけられなかったけれど、今年は久しぶりに、いとこと富士山こどもの国へ旅行に行きました。

初めてづくしの一つ目は、いかだづくりです。いとこと協力して自分たちでいかだをつくりました。太い木の棒をロープでしばって、そこに木の板を乗せます。それだけだと沈んでしまうので、最後に浮きをつけます。苦勞してつくったいかだに二人で乗れたときは本当にうれしかったです。



二つ目は、にじますとりです。釣るのではなく、手で捕まえます。にじますは動きが速いし、ぬるぬるするので、なかなか捕まえられなかったですが、いとこと協力して二人とも捕まえることができました。捕まえたにじますは、あみで塩焼きにして食べました。自分で捕まえた魚は今まで食べた魚の中でいちばんおいしかったです。

来年の夏休みも初めてのことにチャレンジしてみようと思います。



### 三年目のチャレンジクラブ

湖北二丁目  
 土小六年 高桑 夏帆

私は、三年目のチャレンジクラブ員です。

チャレンジクラブは、小学四年から小学六年までの土浦小十二名と土浦二小三名の合計十五名で、一中地

区の学校や学年の枠を超えて、仲間を大切にし、何事にも挑戦することを目的とした活動です。

月一回の活動ですが、花を植えたり霞ヶ浦でカヌーに乗ったり、笠間焼に絵付けをしたり朝日里山学校でピザをつくったりと色々な体験を一中地区市民委員会の方の協力で行いました。

私には、中学二年になる兄がいます。兄もチャレンジクラブを三年間活動していました。二〇一九年の茨城団体の時には一中地区のチャレンジクラブ代表として炬火のトーチを点火している姿を見て、私も入りたい!と思いました。

今年度の七月は「森に親しむ〜県北地方の風景から学ぶ〜」というこ



とで、奥久慈憩いの森に行きました。そこでは、事務所の方の案内で自然観察と、本棚づくりをしてノコギリや釘打ちをしました。ノコギリで大きな木を切ったことがなかったので腕が痛くなりましたが作り上げる達成感がありました。

これからの活動予定には動物園や公民館祭りがあります。コロナ禍でクラブの人数も少ないけれど、全員で協力して楽しい活動にしていきたいです。

### 少年野球

## 「土浦オールスターズ」の紹介

田中三丁目

土小六年

大塚 航平

僕の所属している、少年野球チーム・土浦オールスターズについて紹介します。土浦オールスターズは、今年で十六期になります。その前身は「虫掛ファイターズ」と「土浦レックドソックス」です。二〇〇七年に土浦小学校区内で、活動していた二チームが一つになり誕生しました。土浦オールスターズというチーム名は「選手一人ひとりが星であり、その星がひとつにまとまった形、それがオールスターズ」という意味に込められています。

僕は、小学一年生の夏休みに入団しました。お父さんに、「野球は面白いよ」と勧められて体験会へ行きました。体験会は、知らない人がたくさんいてドキドキしました。けれど、みんな優しく、キャッチボールをしたり、打席に立たせてくれました。僕は、その日ホームランを打ったのです。とつてもワクワクしました。また、ボールを少しづつ高くあげて、キャッチする練習も楽しかったです。オールスターズに入団したことで、先輩たちと交流ができて、学校生活が楽しくなりました。はじめは少なかった同級生でしたが、「いっしょに野球やろうよ!」と声をかけて、少しずつ仲間が増えました。僕は、友達が大好きです。遊ぶ約束をしなくても、野球に行けば会えるので、それがいいところだなと思います。

土浦オールスターズのモットーは「好球必打」です。それは、打席に立った時には、好きな球を必ず打とう!ということなんです。打席に立つと、いろんな球がきます。内角、真ん中、外角、ワンバン、デッドボール…。僕は、外角にくる球が好きです。バットに球が当たると、とつても気持ちいいです。また、仲間が打席に立つ時には、「絶対打てよ!」と力が入ります。応援してもらえると、頑張る力が湧いてきます。守備では、ボールを大きく外して投げたしまつたり、ボールをこぼしてしまつたり、エラーをすることもあります。そんな時、監督は「エラーをしても勝てばいい!」と励ましてくれます。



チームの勝利の鍵は、ひとりひとりの勝ちたい気持ちと自主練習にあります。秋の大会に向けて、僕は絶対優勝したいです。僕はキャプテンとして、仲間の気持ちを盛り上げるとともに、チームの優勝に向けて精いっぱい頑張っていきたいです。応援よろしくお願いします!

本年度、土浦小学校は一五〇周年という大きな節目を迎えます。本校開校に尽力された方々、そして、社会情勢の変化に伴う幾多の困難を乗り越えてこられた方々の御苦労は大抵ではなかったものと拝察いたします。その間、土浦小学校は着実な発展を遂げ、多くの前途有為な卒業生が巣立ち、様々な分野で御活躍されていることと存じます。昨年度の卒業式では、その後輩に当たる一七、八四八人目の児童に卒業証書が手渡されました。歴史と伝統の重みとともに、それを未来へとつないでいく誇りを胸に巣立っていきました。そして、今年も、「土小ネクストステージ一五〇」伝統を誇りに新たな時代へ」というテーマのもと、一五〇周年を祝う式典や学年行事を計画しています。

一方、感染症対策の観点では、今年も全国の学校同様、例年とは異なる生活様式を強いられる日々でもあります。それでも、児童たちは、物



土浦小学校校長  
鶴田 由紀子

「一五〇年の重みと誇りと」  
「ありがとう」



事を柔軟に受け止め、お互いに思いやりの心を忘れずに充実した時間を作り上げています。例えば、運動会。

三年ぶりに保護者の皆様に御来校いただき、五月に分散で開催いたしました。低学年はかわいらしく、中学年はパワフルに、そして、高学年は頼もしく、それぞれに充実した時間となりました。特に五、六年生は、係員として低中学年の運動会も支えてくれました。自分たちが先輩からしてもらったように、優しく下級生の面倒を見ている姿が多く見られました。これも本校のよき伝統です。創立一五〇周年記念式典は、十一月二十二日(火)に開催いたします。本来、本校を支えてくださっている全ての皆様を式典に御招待し、喜びを共有したいところですが、感染症

対策のため限られた人数での開催という苦渋の決断となりました。しかしながら、保護者・地域の皆様がお子様にながれてきた愛情と本校教育への御協力、並びに、歴代校長先生を始め諸先生方の教育に寄せる熱い思いと真摯な御指導は、本校教育の揺るぎない礎です。改めて深く感謝いたします。今後「たまぎの心」の伝統を生かした教育に邁進して参りますので、引き続き地域の皆様の温かい御支援をよろしくお願いいたします。

●同好会だより

**水曜スケッチ会(淡彩)活動**

会長 寺門 正勝

平成十六年一中地区公民館講座(講師高橋秀先生)が終了後、受講者が中心となり同好会を発足させ、現在に至っています。

高橋講師による毎月二回の指導と、月二回の自主研修の活動でした。

その他に年二回の県外スケッチ会、食事も、公民館祭りでの作品展示、又会独自の作品展示も年二回程行なってきました。

しかし、昨年、講師の高橋秀先生が死去されて、今は、月二回の活動となりました。

その後は、会員の小林道利さんに指導を願い、第二と第四の水曜日の午後一時から十二名の会員で活動しています。

主な活動内容は、室内での静物の淡彩スケッチとなっております。ここ数年は、コロナ禍で思うような活動ができないのが悩みでしたが、今後、県外スケッチ、展示会、食事も盛り込んで活動していく計画です。

月二回の活動は、描く時間が八分目、あとの二分目は雑談という和気あいあいの楽しいものです。

入会をご希望であれば、見学してみてください。大歓迎です。お待ちしております。

●同好会だより

**ヨーガ同好会**

会長 倉持 文男

ヨーガ同好会は発足から十六年が経ちます。現在会員数は十七名、毎週日曜日午前十時から午後一時まで二部制で牛久市在住の佐藤スミ恵先生の指導を受けヨガを楽しんでいます。いつも清掃の行き届いた公民館を利用して頂き、また職員の皆様には大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

佐藤先生はヨガ研鑽三十一年のべ

テランで身体を柔らかくすることが血流を改善し、老化防止に有効と無理のないポーズで呼吸法や各部の筋力強化を指導されています。第二の脳と言われて話題になっている腸の活性化のための捻りやマッサージなども十分取り入れていきます。あまりハードなポーズを求めるとも身も心もリラックスさせることが自律神経や内臓器官の機能改善につながると言われていきます。まず足の裏を叩き足指に手の指を入れて回転することからスタートします。普段使われていない筋肉の伸長などを続けていると柔軟性を実感することが出来自信が湧いてきます。

私のことで恐縮ですが五年前に次女に誘われて渋谷入会しました。



まったくヨガというものは知りませんでした。しかし二回の癌の病に見舞われ、少しやる気になってきたところ中断を余儀なくされ

## みんなの広場

## いやしの散歩道



桜町二丁目地区長  
石居 一司

ました。仕事や趣味をもっていたことで頑張ることが出来ました。また糖尿病や通風の持病を持っていましたが、通風はなくなり血糖も安定してきました。なにより嬉しいのは精神的に前向きになってきました。現在、仕事、ヨガ、カラオケ、ゴルフ、野菜作りに忙しく動いています。人間やる事があることが生き甲斐だと思います。先輩会員の皆さんに支えられながら知らず知らず心が通う癒しの場となっております。

週一度の講座ですが生活のメリハリが生まれ、こころなしか精神状態もゆったりしたものになり、先生をはじめ会員の皆さんに生活態度や心構えなど人生を教えて貰っているように感謝しています。

今病気になる身体づくりや脳活など認知症予防が言われていますが、長い歴史を持つヨガは心身一如の揺らぐことのない健康法だと思います。現在はウィズコロナ社会ですがマスクもだいぶ慣れエアコンの効いた環境で励んでいます。ヨガのあとの皆さんの姿は元気を取り戻もどしています。「痛た、気持ちいい」が癖になりそうです。多くの皆様の御参加をお待ちしております。

私の町内は桜川沿いの風俗店と駐車場が町の半分を占めています。

そうした町で、我が家は勾欄から百メートルほど上流の堤防下にあり、

いつしか趣味が高じて、目の前の堤防の法面を利用して五十メートルほどの間に花壇を作り、今では六・七〇種類の四季の草花を育てています。

桜の花の咲く頃には、芝桜・チューリップ・パンジー、初夏には紫陽花・鉄砲百合、秋には菊・秋桜・彼岸花、箱庭には山野草を植え散歩する人達の目を楽しませています。

早朝は、ラジオ体操をするグループ、午後にはおしゃべりを楽しむ人達、土・日は釣り人達が、置いてあるベンチを休憩場所に使っています。

長年花壇の手入れをしていると、そんな皆さんと顔なじみになり一緒に話の中に入ったりします。そうした日々が流れていくと「あの方の頃の頃見かけないな」「あの方入院されたの」とか、毎日の様に姿を見せ

ていた人を見かけなくなると、どうしたのかなと心配になったりもします。散歩に来る人達の多くは高齢の方が多く「あの方は亡くなられた」とか聞くと寂しさと共に時の流れを感じさせられます。

温暖化の影響でしょうか、花の開花が年々早くなって行くように感じます。又、猛暑のせいでしょうか花が早く枯れてしまします。季節の変わり目を草花からも感じます。

「今年も芝桜が咲きましたね」「百合ももう直ぐ咲き始めますね」とか、季節の花が咲くのを楽しみにしている人達がいてくれ、また「いつも綺麗な花を見させてくれ目の保養をさせてもらってありがとう」と言ってもらえたりもします。

私も後期高齢者になり、腰痛もあり、春の苗の根付けや、草取り、秋の球根の堀上げ、枯草の後始末、木々の剪定とか、手入れが年々困難になってきました。

いつまで花壇の手入れが出来るのかなと思う今日この頃ですが、散歩に訪れる皆さんが毎年季節・季節の花の咲くのを待つて居てくれると思うと出来るだけ長く続け、皆さんの心を癒やすことが出来ればなと思っています。



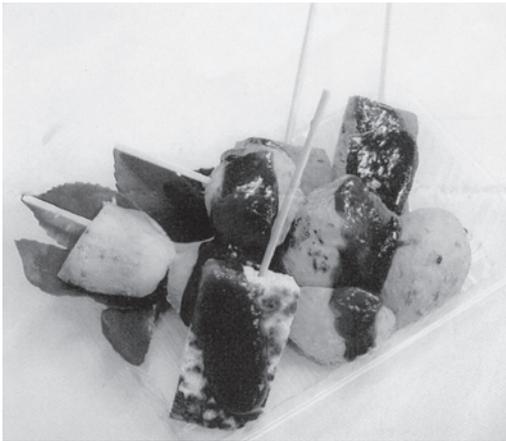
## 「じゃかもじやん祭り」の思い出



東崎町地区長  
関 正一郎

じゃかもじやん祭りは、東崎町鷲神社で行なわれる歴史ある行事です。由来は昔より旧暦一月十五日無病息災を祈願し、鉦、太鼓を叩き数珠を廻しながら念仏を唱えました。その時の音が「じゃかもくじやん」と聞えたと言われています。この時参道では味噌おでんが、売られていました。このおでんを喰べると、一年中風邪をひかないと云われるため、参詣者で賑わいましたが戦後物資乏乏もあり、いつしか途絶えました。「二九七八、昭和五十三年復活」

復活は当時の育成会が主体となり



保存会を作り、販売したところ飛ぶように売れたとのこと。その時私は入会しておらず翌月入会しました。毎年町内会の忘年会では「来年のじゃかもこじゃん」はいつになるの？と話題になります。すると年配者が「〇月〇日だよ」とお教えてくれます。旧暦一月十五日のため毎年違います。年が明けて新年会では、準備の日程、販売数、イベント等を決めます。この祭りは、町内各会と協力出来る方を募り、町民一丸となつて行います。準備から販売に至るまでには多種多様なことがあります。例えば、里芋の調理では、洗い〜カット〜蒸かし〜天日干し〜串刺し、この一連の作業はほぼ皆が係ります。秘伝のタレと云われる味噌タレは、婦人会の方が造ります。次に

このタレを小さなカップに注ぎ入れます。そして販売数まで造ります。他にコンニャク切りもあります。この作業が終ると一段落でホット一息つきます。販売時は一パックに里芋二本、コンニャク二本、焼豆腐一本を入れて包装紙で包み味噌タレカップ一個と榊一枝付けます。尚、里芋は炭火で焼いて焦げ目をつけ、コンニャクはお湯で温めます。イベントは、地元出身歌手、漫才師を招待や力士の手形披露も花を添えました。カラオケ大会も人気があり長くやりました。当日は早朝より販売の段取りで大忙しです。露天商の方も境内に店を並べるため混雑します。十時より販売開始ですが、既に行列ができ境内の外まで並ぶことがあります。車で買いに来る人もいるので交通整理をします。盛り上げるためステージのスピーカーで歌謡曲を流します、販売の叫び声とも重なり賑やかになります。買って頂いたお客様には、空フジ無しの抽選機でガラガラポンがあります。お昼過ぎまで忙しく昼食は交替で喰べます。夕方にはカラオケ大会が始まり盛り上ります。カラオケ大会が終わると簡単に片付け、慰労会が始まります。会計の売上げが発表されると大きな拍手をし、皆

笑顔で思い思いの話をしながら美酒に浸ります。復活直後味噌タレの研究と称し、育成会で袋田の滝近くでの宿泊、塩屋岬方面の宿泊、一作業が終わった後の一杯、最後片付けが終わった後のバーベキューで反省しながら呑むのも楽しみでした。二次会までのカラオケ他紆余曲折しながら夢中でやってきましたが、年々寄せる少子高齢化の波には勝てず、平成二十六年を最終に三十七年間の幕を下しました。思い出の一ツです。

**「最高のリフレッシュ」**  
虫掛町地区長 坂本 貞嗣



自宅はリンリンロードに隣接する環境である。朝六時前に家を出発し、約六十分から九十分のリフレッシュタイムを迎えることができる。雨の日以外はほぼ毎日。コースは虫掛休憩所から旧筑波駅までの区間往復で約三十キロメートル。何も考えることなくひたすらペダルを漕ぐ。何も考えず自分と向き合って走るこの走り方を約十年間、その中で、最近楽しみになってきたことやものを紹介したい。

第一の楽しみは「筑波山」。虫掛休憩所から見える筑波山は、私にとつて見慣れた山である。しかし旧北条駅を過ぎると筑波山の裾野から頂上まで一望できることに感激。毎日同じ筑波山だが、雲の流れ方や四季の移り方、木々の色付きの違いがたまらない。

第二は「桜の季節」。山桜は葉が先に色付き、花が後から咲き、花が散ると新緑がまぶしいくらいに鮮やかである。その後ソメイヨシノが虫掛休憩所から坂田間で咲き出す。また、その数日後に田土部休憩所から小田城までの区間に、八重桜が咲き出す。小田休憩所ではしだれ桜を見ることができ、庄巻は旧北条駅から筑波休憩所までの桜である。桜の開花期間は非常に短い、非常に趣がある。その中で旧北条駅近辺の桜吹雪、そして桜の絨毯の上を贅沢に歩くこと。自分だけの車輪跡をつける

ことができる。

第三は「人」である。毎朝同じ場所であい拶を交わす「おはようス」。この短いコミュニケーションも好きである。研修で来日しているベトナムの少年はいつも笑顔であい拶を交わしてくれる。ヒルクライムを楽しんでいる外国の人もいる。楽しいからと勧めてくるが、私自身の体力の問題で残念ながらお断り。本当の理由は事故のリスクである。楽しみながら走るができないことを想像しただけできつい。自転車に乗っているからコロナにも負けず健康に過ごせたかな、また友達を増やすこともできたかなと考える。これからもストレスに負けずカッコよく走り抜ける人生を謳歌していきたい。

**立田町 秋葉神社**

立田町 地区長 小林賢一郎

立田町の秋葉神社は静岡の秋葉山秋葉神社本宮から分霊されて建てられたそうです。このご祭神が、一時期お社が古くなったので中央一丁目の金毘羅様に預かって頂いたそうです。その間に立田町で火災がたびたび発生したので、お社を再建して、ご祭神を再びお迎えして、八十八年程になりますが、それ以来町内の

火災は一軒のみの災難だけで守られております。

町では毎年十一月十七日を火災防護の御祈禱の日と定めて祭礼を行っておりますが、この三年間はコロナ過の為祭礼を縮小して行っているのと、年々お参りする方が減っている状況なので心配しています。結びに早く感染症が収束すること、町全体で、町をお守りしてくれる秋葉神社の維持管理に努め、少しでも参拝者が増えることを願っております。

**令和三年度環境部事業報告**



環境部長  
桜町三丁目  
富田 祐

日頃は、環境部に対しましてご理解とご協力をいただきありがとうございます。

新型コロナウイルス流行から二年六ヶ月が経過し、現在ではさらに感染力が強い変異株が猛威を振るっています。

令和四年度は事業計画などを審議する打合せ会議が五月八日に開催され令和三年度事業、令和四年度の事業計画案が承認されました。

**※令和三年度事業**

- ・ 打合せ会議 書面会議
- ・ 花火大会後の清掃活動 中止
- ・ 公民館祭りへの協力参加 中止
- ・ 視察・研修 中止
- ・ ポイ捨て看板設置 中止
- ・ 花いっぱい運動への参加 通年にて
- ① 公民館の協力によりプラントーの整備
- ② 十月二十二日 種の配布・肥料の配布の実施
- ③ 三月八日・九日 坂田園芸にて花いっぱい運動の花壇づくり講座開催
- ④ 五月二十八日 花いっぱい運動の花苗配布

- ・ 六月十二日 土浦市まちづくり市民会議専門部会
- ・ 六月二十一日 土浦市環境基本計画推進協議会全体会
- ・ 十月二十三日 桜川河川敷清掃

十一月七日

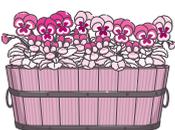
- ・ NPO法人水辺基盤協会第四十九回霞ヶ浦クリーン大作戦
- ・ 十二月四日 霞ヶ浦湖岸ウォーキング
- ・ 一月二十二日 NPO法人水辺基盤協会主催「九十六会防塵挺身隊霞ヶ浦湖畔クリーン大作戦」
- ・ 一月三十一日 土浦市環境展準備

**※令和四年度事業計画**

- ・ 打合せ会議 五月八日開催
- ・ 花火大会後の清掃活動
- ・ 公民館祭りへの協力参加
- ・ 視察・研修
- ・ ポイ捨て看板設置
- ・ 花いっぱい運動への参加 通年にて

令和三年度も新型コロナウイルス変異種のさらなる感染拡大により殆どの事業が中止となり残念な一年となりました。

令和四年度はコロナワクチンの接種と三密を徹底し、普通の日常生活に戻れることを期待し令和三年度の事業報告とします。



# 「福祉」ボランティア

市民委員会・福祉部長

立田町 中村 和子

私が市民委員会福祉部を引き受けて九年が過ぎました。

新型コロナウイルスが発生して早や三年目です。未だに感染が拡大し終息しない状態が続いております。

様々な行事がキャンセルになり、行動範囲も制限されて人々の心も変化しました。人の心と目線が身近なものになり、外の社会から家庭へ、大集団が小集団へと様変わりし、人と人とのつながりがとても大事だと気付きました。

そんな時に「亀城」の原稿依頼を受けて何について書いて良いのか思案しましたが、自分の関係の深い「福祉」ボランティアについて書いてみたいと思います。

一口に「福祉」と言っても巾が広く、社会福祉協議会に登録されているボランティアサークルは現在十八団体ありますが、そのうちのひとつである、ひとりぐらしに対する宅配ボランティア「たまき会」について取り上げてみたいと思います。

「たまき会」は会員二十八名、月二回、一回に十四名が約五〇食を献



立、買い物、調理、配達と社会福祉協議会の人と共に安否確認の上、配食しています。「いつもありがとう、美味しく頂いています。」の声を聞くたびに宅配ボランティアをして良かったと心から感じるものがあります。

しかし最近ボランティアの高齢化が進み、若い世代の方々が参加出来ないものか模索しており、若い担い手が必要とつくづく感じています。

この原稿を読んで「サービスを受けたい方」「ボランティア活動に興

味を持つてくれる方」が増えてくれることを期待しております。

ボランティア活動を通して楽しさ、喜び、人と人とのつながりや難しさ等色々な経験をして自分に合ったものを見つけて、少しずつ参加して欲しいと思います。宅配ボランティアは私にとって最も大切です。「やれない事は無理してやらない」をモットーとして、これからも頑張つて続けたいと思います。

今年度は福祉部長に任命されましてので皆様のご意見を聞きながら「開かれた福祉部」をつくらせていきたいと考えています。皆様のご協力をお願い致します。



# 公民館コーナー



一中地区公民館

館長

沼崎 俊明

本年度から、一中地区公民館館長に就任いたしました。当館の勤務は二度目で「ただいま、帰りましたー」という気持ちでございます。

当館の三つの顔であります公民館・コミュニティセンター・社会福祉協議会業務につきまして、一中地区の皆様には、ご理解・ご協力いただき感謝いたしております。

今後も生涯学習施設としての講座・貸館等の公民館業務、地区の皆様によるまちづくり活動の拠点としてのコミュニティセンター業務、様々な福祉事業を展開する社会福祉協議会業務を進めてまいります。

そして、新型コロナウイルス感染の終息が見えない状況の中、引き続き感染防止に努め、各事業を実施してまいります。

今後とも、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

# 龜俳句会(同好会)

八月の空に昭和の記憶かな

飯島 政和

様々な重荷おろして日向ぼこ

飯塚 紀美子

石畳に鳩を空カン晩夏光

青島 迪

デイケアのバスの送迎半夏生

鈴木 みち子

十人の近況を聞く盆の夜

土井 直子

砂けむり浴びて声援いわし雲

野口 輝子

## 短歌

ビシツと決まる祖母の味付け六人の子育てし勤は死ぬまで確か

井上 寛江

蝶のデザイン世界に誇れる森英恵女史<sup>はなえ</sup>冷蔵庫にも瑠璃蝶ひらり

櫻井 雅江

夕風の立つ寺庭は寂しかり母を呼びたき白萩の花

瀬古澤 和子

刈り終えた畦に倒れし案山子あり汚れた顔を秋風洗う

齋藤 順子

片隅で小さく眠る保護猫が三日も経たず今年の干支に

桑田 今日子

### 編集後記

これを書いている今は9月半ばです。暑い夏が終わってやっと秋になりました。外からは涼しげな虫の音が聞こえてきます。

コロナ禍も少しずつ収束の方向へと向かってはいるようですが、気の抜けない状況はまだ続きます。それでも三年ぶりに土浦の花火大会が開催されることになりました。夜空に広がる鮮やかなきらめき

と、空気を震わせる爆発音。思い出すとわくわくします。毎年この日が戻ることのしあわせと、それが続いていくことを期待します。

鎮魂の意もある花火大会です、来年も再来年も途切れることなく土浦の花火が見られることを願っています。今号も皆様にたくさんの方の寄稿をいただきました。編集委員一同心

より感謝申し上げます。

(K・I)

(本号の編集担当名)

- 新井 幸男/田中久美子
- 石川 幸子/梅木 逸夫
- 岡部 恒文/小野村一博
- 小泉 裕司/佐藤 春治
- 高橋 瞳/宮口 五郎
- 山本 敦子/横山 光栄